



JAPANESE SOCIETY FOR INTERNATIONAL NURSING (JSIN)

国際看護研究会 NEWSLETTER No.79 2015



本号の内容は以下のとおりです。

- I. 第 81 回運営委員会報告
- II. 第 18 回国際看護研究会総会報告
- III. 第 18 回国際看護研究会学術集会報告
- IV. 第 18 回国際看護研究会学術集会会長講演抄録（第 78 回講演会）
- V. 第 79 回国際看護研究会講演会案内
- IV. 海外情報
- VII. スタディツアーのご案内
- VIII. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

I. 第 81 回運営委員会報告

国際看護研究会第 81 回運営委員会は 2015 年 6 月 13 日（土）にメール会議として開催され、第 18 回学術集会に合わせて開催される総会に提出する資料について検討し承認した。

II. 国際看護研究会第 18 回総会報告

国際看護研究会第 18 回総会は 2015 年 9 月 26 日（土）に JICA 横浜で第 18 回学術集会に併せて開催された。提出された資料に基づいて以下の項目について説明され、原案通り承認された。第 19 回（2016 年度）学術集会は再び京都で開催される見通しとなった。

1. 2014 年度事業報告
2. 2015 年度収支決算案
3. 2016 年度事業計画
4. 2015 年度予算案
5. 2016 年度事業案
6. スタディツアー開催案
7. 学会化ワーキンググループ検討状況
8. 国際看護研究会第 19 回学術集会（第 82 回国際看護研究会）について

日時：2016 年 9 月または 10 月（予定）

場所：京都（予定）

会長：京都橘大学 河原 宣子 氏

テーマ：「国際看護活動を担う人材の育成に向けて－地球的視野を育む－」（仮）

*詳細は今後 NEWSLETTER やホームページでお知らせします。

III. 国際看護研究会第 18 回学術集会報告

国際看護研究会第 18 回学術集会事務局長：森 淑江

第 18 回学術集会は、2 年ぶりに横浜港を目の前に建つ JICA 横浜で開催しました。参加者は 100 名にのぼり、学生ボランティア 12 名の協力を得て無事終了しました。今年は青年海外協力隊創設 50 周年という節目の年であり、記念行事だけでなく国際ボランティア会議など各種の関連の会議が年末まで予定されています。これを記念して今回の学術集会会長として中国で活動した元看護師隊員である群馬大学大学院保健学研究科辻村弘美氏による基調講演「途上国と遠隔教育でつなぐ国際看護協力」やシンポジウム「新



たな人生設計―転機をもたらした国際協力活動―」が行われ、そして2会場に分かれての一般講演という充実した内容となりました。基調講演では必ずしも現地に行かなくても途上国の人材育成を支援する手法があることが紹介され、シンポジウムでは国際協力活動が新たな職業を選ぶ転機となった体験をもとに国際協力についての意義が浮き彫りになりました。学術プログラム終了後の茶話会では、参加者の方々がいろいろな方との交流を図り、今後の国際交流や国際協力へのはずみとなったのではないかと思います。



この学術集会開催に当たっては1年近くにわたって準備にかかわってくださった準備委員の皆様、査読委員の皆様、当日の運営を円滑に進める力となった学生ボランティアの皆様、会場としての利用を快く承諾してご支援くださった JICA 横浜関係者の皆様、そしてご出席いただいたすべての方々に感謝申し上げます。来年も皆様と学術集会でお目にかかれまして幸いです。

IV. 国際看護研究会第 18 回学術集会会長講演抄録（第 78 回講演会）

途上国と遠隔教育でつなぐ国際看護活動

International nursing distance education system connecting with developing countries

辻村 弘美 Hiromi Tsujimura

群馬大学大学院保健学研究科 Graduate School of Health Sciences, Gunma University



開発途上国における看護師の人材の不足は深刻であり、1人の看護師に対する人口比率は、日本では1:99(2006年)に対して、スリランカでは1:1,038(2005年)であり、スリランカは日本と比べてかなり看護師が少ないことがわかる。この状況は、看護の質の向上の視点においても良い影響を与えることは期待できない。WHOなどの国際機関や先進諸国などが、インフラの整備や人材育成などの対策に力を入れているが、進んでいるとはいえない状況である。

開発途上国の看護教育に関する支援としては、大学などの教員が長期にわたって現地におもむき教育や指導などを行うことは、時間的および経済的制約等の理由により困難である。そこで我々は、この問題を克服するために、以前より交流のあるスリランカ、モンゴル、ニカラグアの国立大学と共同で、講義形式でなく看護教育で重要な技術を中心とした双方向の遠隔教育システムを用いた教育方法を開発している。

本講演では、スリランカと双方向の遠隔教育システムを用いて行った看護技術の授業の実際とその問題点や課題について発表した。看護技術の授業においては、2013年3月～6月の3ヶ月にわたり、授業の時間帯は双方のやり取りがしやすい、インターネット回線が安定している日本時間で正午頃（スリランカ時間で朝方）とし、5回（1回は1時間半程度）の授業をスリランカの Peradeniya 大学の大学生に対して行った。その内容は、ポジショニング・体位交換・移動の援助、褥創のケア、食事介助であった。体位交換においては、重要なこととして、人（ひと）の自然な起き上がりの動きを知って、その動きをサポートすることでクライアントや看護師が負担なく安楽な体位交換ができることを説明し、実際に患者役と看護師役による体位交換・移動援助を実際に見せながら説明した。褥創のケアでは、褥創のレベル（ステージ分類）や褥創のケアのポイントとして予防するための対策が基本で重要であること、褥創が発生した場合のケアについては、褥創モデルを用いながら、ケアの一例としてラップ療法について説明した。食事介助では、食事時のポジショニング、嚥下のメカニズム、食事介助や経管栄養の手順とその実際を説明した。食事に関しては、スリランカで一般的に食べられているものを想定して準備を行った。授業の評価については、主に3つの評価表（①看護技術の手技に関するチェックリスト、②遠隔授業システムや授業方法や内容の評価表、③遠隔授業終了後の評価に関する質問紙）を作成した。

問題点としては、「ウェブカメラの画像や音声がはっきりしない」「インターネット回線が安定しておらず、映像が途中で切れる」「時差の関係によるトラブル」「講師の発音などの問題」などが挙げられ、その解決策としては、「ウェブカメラに映る使用物品の位置や講師が着る洋服などの工夫」「インターネットが安定する時間帯を選んで実施する」「授業の前に事前にスリランカの教員と内容や手順の打ち合わせをする」「ポイントを絞ってゆっくり動き、話す」などを実施した。

当初は、大がかりなTV会議システム等を使用して遠隔教育を行うことを考えていたが、IT設備や通信速度・容量などの問題があり、全世界で普及しているIT電話であるSkypeを使用して授業を行った。以上を実施した結果、単なる講義を行う場合と異なり、技術教育にはIT設備や通信速度・容量などIT基盤の脆弱性が大きな障害となることが明らかとなった。また、教室内での指導方法と異なり、映像がわかりやすく伝わるようなデモンストレーション方法の工夫、チェックリストなどを用いた詳細な評価方法の検討などが必要であることがわかった。今後は、限られたIT基盤の下で、最大限の効果が得られるような技術を開発することが課題である。

V. 第79回国際看護研究会講演会案内

【日時】2015年12月19日（土）13時～15時

【会場】JICA市ヶ谷ビル 202AB

【講師】日本保健医療大学保健医療学部准教授 岸田敦子先生

【テーマ】「医療保健スタッフ自身が持つスピリチュアリティを母子保健の現場で輝かせる重要性～発展中の国々や災害地での国際ボランティアを経験し受けとった智慧～」

【要旨】国内や海外の災害地や、発展中の国々で活動をする中で、気づいたことがあります。それは、相手(国)と自分との相互作用を最大限に引き出し、効果的に事態をより良い方向に導いていくために必要

不可欠で大切なことについてです。本講演では、自分と相手のスピリチュアリティで対話し、重ね合わせていくというプロセスの中で起きてくる効果性の高い援助のことや、人間が人間である限り、死に直面するような極限の状態に置かれたとき、肉体を救うのと同時に魂レベルにアプローチされる必要がある、という観点からお話しをさせていただきます。

VI. 海外情報

JICA 青年海外協力隊 26 年度 3 次隊 三塚麻貴氏



前号 (NL No.78) では、バヌアツの概要や地域の特性、派遣の背景などを報告しました。今回は、実際の活動について報告します。

4) 配属先の概要

診療時間は月～金曜日の 7:30～11:30、13:30～16:30 までですが、当直体制があります。業務内容としては、診療、巡回診療、投薬、創傷処置、家族計画、妊産婦健診・乳幼児健診、出産介助、予防接種等多岐にわたっています。配属先は周辺にある 30 弱の村をも管轄しており、管轄下にある小規模医療施設(4つの診療所と 3つの小規模医療施設)を定期的にまわり巡回診療をしています。小規模医療施設は看護師資格を有する者が

いる所もあれば、スタッフはおらず巡回診療のときだけ開放されるという所もあります。

ヘルスセンター(H/C)スタッフは以下の通りで、医師は島の都市部にある医療機関にしかおりません。

ナースプラクティショナー(以下 N/P;上級看護師、カウンターパート(CP)) 1名

レジスタードナース(以下 R/N;看護師) 1名

ナースエイド(以下 N/A;看護師資格なし) 1名

看護学生 1名(2016年看護学校へ戻る予定)

看護師補助員 1名

運転手 1名

清掃員 1名(週1回)

主に診察を行う者は N/P、R/N、N/A の 3名です。N/P、R/N の看護や医学の知識・技術はあるように感じます。ただ、『薬で治す』『薬を飲めば治る』といった意識が H/C スタッフにも村人にも強くあるように感じられ、『予防する・悪化させない』ということへの意識を高める必要があると感じました。

N/P は助産師の資格を持っていますが、資格を持たない R/N、N/A も出産介助を行なっています。H/C での出産が困難だと判断された場合は島の都市部にある病院に救急搬送することもあります。

5) 活動計画準備状況

CP は私が赴任してすぐに 3ヶ月にわたる休暇に入りました。他のスタッフと業務を共にし、見学・参加を通して H/C の役割や業務のまわし方について学んでいます。

それ以外に、情報の整理・収集・共有をする目的で以下を実施しました。

- ① 昨年度の H/C 利用状況の集計
- ② ポートオーリーの村人対象の健康診断(6項目;身長・体重・BMI・ウエスト・血圧・血糖値の測定)
- ③ 個人用健康診断カードを作成し、健康診断時に配布
- ④ 健康診断の結果を載せた新聞を作成し、H/C 含め村の7か所に掲示(写真上)



上記の①に関しては、保健省に毎月提出している記録を用い、この H/C における患者の動向を月ごとに集計、データのグラフ化をしました。②に関しては、村人 321 人のデータを収集し、セクター毎の比較、国との比較をしました。③に関しては、データの変動を個人でも確認できるように個人持ち用の個人情報記録カード作成し配布しました。④に関しては、地域の健康レベルの共有をするために、ストアやチャペルに掲示をしました。①と②に関しては N/P、R/N と情報を共有・意見交換を行い、年内に再度健康診断を実施する予定となっています。現在は、健康診断目的で H/C へ訪れる村人がちらほら出てきています。CP と実施内容やその優先順位、実施方法を相談しながら時期をみて健康教室を開催してゆきたいと考えている段階です。

この国の人々はすれ違うと、知人でなくてもあいさつまたは笑顔をくれる人がほとんどです。そして、ポートオーリーの人々に覚えてたての村の言葉であいさつすると声をあげて喜んでくれ、人々のあたたかさやおおらかさを日々感じます。そして、ポートオーリー村は村全体が 1 つの大きな家族のような印象を受けました。その背景として、遠い親戚までもが同じ敷地で生活していたり、養子をとっていたりと家族の人数が多いということがそう感じさせているのだと思います。ですが、それだけではなく、モノや情報をみなで共有し、畑仕事、食事の下ごしらえ、子供の世話等も隣近所で助け合いながら行っている場面をよく見かけることがこの印象を抱かせるのだと思います。

この大きな家族に受け入れてもらえるよう 2 年間活動に励んでまいりたいと思います。

VII. スタディツアーのご案内

第 18 回総会 (2015 年 9 月 26 日) で以下の内容によるスタディツアーが承認されました。2015 年 10 月末日まで参加者の募集を行います。先着 7 名です。費用は 20 万円以下の予定です。運営委員の伊藤が企画・引率をいたします。ご応募・ご質問などは国際看護研究会事務局あてにメール

(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp) をお願いいたします。

国際看護研究会 2015年度スタディツアー（インドネシア）

日程				訪問先など	宿泊
2 月	27日	土	①	8:00 集合 羽田空港	ジャカルタ
				10:10 羽田空港発 NH855	
				15:55 ジャカルタ空港着	
	28日	日	②	特別小学校	ジョグジャカルタ
				生徒宅 家庭訪問	
				国際協力機関スタッフとの交流または国立博物館	
				16:20 ジャカルタ発 GA214	
	29日	月	③	市場視察	ジョグジャカルタ
				保健省支局	
保健センター（プケスマス）					
保健ポスト（ポシアンドゥ）					
3 月	1日	火	④	国立病院見学	ジョグジャカルタ
				伝統工芸工房見学	
				午後：自由	
	2日	水	⑤	ムラピ火山博物館	ジョグジャカルタ
				ムラピ山噴火被災地ツアー	
				仮設住宅訪問	
				オプション：文化芸能体験（夕食付）	
	3日	木	⑥	世界遺産ボロブドゥール寺院	機内
				世界遺産プランバナン寺院群	
				メンドゥット寺院	
				18:20 ジョグジャカルタ発 NH5540	
				19:40 ジャカルタ着	
4日	金	⑦	21:35 ジャカルタ発		
			7:00 羽田着		

Ⅷ. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

いつも本研究会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

1. 2014年度、2015年度の会費を未納の方は、至急お振込みをお願いします。

研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。

年会費：一般会員 3,000 円、学生会員（大学院生を含む） 2,000 円

年会費振込先：国際看護研究会 郵便振替口座番号 00150-6-121478

銀行からゆうちょ銀行に振込む場合

店名 ○一九 店 店番 019 預金種目 当座預金 口座番号 0121478

振込用紙の通信欄にご記入いただく内容：

【一般会員の方】・一般会員の口に印を入れ、会員番号、会費の納入年度をご記入ください。

【学生会員の方】・学生会員の口に印を入れ、学校名・学部学科・学年、会員番号、会費の納入年度をご記入ください。

* 払込用紙の金額 3,000 円を 2,000 円に修正してご使用ください。

- 最近 NEWSLETTER が転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。転居された方は研究会事務局 E-mail(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)あてに新住所 をご連絡下さい。尚、海外にも NEWSLETTER をお送りしています。
- NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。
- 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。
- 第 18 回学術集会抄録の残部があります。購入を希望される方は宛先を書いた A4 サイズの封筒と抄録代金 600 円及び郵送料 205 円の合計 805 円分の切手（100 円以下の小額が望ましい）を国際看護研究会事務局にお送りください。第 17 回までの抄録については、お手数ですが事務局にお問い合わせください。

.....

国際看護研究会連絡先（事務局）／NEWSLETTER 発行元

E-mail : kokusaikango@iris.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsin.jp/>

年会費振込先：国際看護研究会 郵便振替口座番号 00150-6-121478

ゆうちょ銀行 ○一九店 店番 019 当座預金 口座番号 0121478

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、NEWSLETTER の記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします



国際看護研究会 NEWSLETTER No.79 2015

2015年10月15日発行

無断複写複製不可
